

誰が摂食障害をつくるのか*



シャリーリン・ヘ
スルバイバー著
宇田川拓雄訳

新曜社
定価 2993円

女性のスリム化が先進国中心に猛威を振るっている。スリム化願望が高じての拒食症（食物への強迫観念・飢餓的ダイエット、過酷な減量）とその反動としての過食症（強迫的大食とその後の自発的嘔吐、下剤使用）患者が、日本でも増加している。どうして特に若い女性がここまでスリムになれない自分への非難地獄に陥るのか。

膨大な数の女性にインタビューしたポストンカレッジ社会学教授の著者は、学校でも職場でも男が求めているのは成績でも能力でもなく、スリムで美人であることで、それを女性が安定した結婚の保障を意味すると考えるからだという。しかし女性を病気になるまでスリム化に走らせているもう1つの原因は、ひたすら巨大利益を追って、初めは栄養過剰の肥満食品を売り、次にはやせるためのあれこれの食品を提供する食品業界ややせる治療をする医療界、やせる医薬品製造販売業界などによる社会的強制にあるという。